

お 知 ら せ

平成30年11月27日
独立行政法人農林漁業信用基金
林業管理室

林材業の業況動向調査(平成30年度下期)の結果について

当信用基金では、全国の林材業の短期的動向を把握し、林業信用保証制度の適切な運営に資することを目的として、昭和51年10月以降、上期(4月～9月)及び下期(10月～翌年3月)の状況を継続的に調査しています。

今回は、平成30年度下期分として本年11月に調査した結果を別添のとおり、とりまとめましたので、お知らせいたします。

お問い合わせ先
林業管理室：羽山
TEL:03-3294-5581
FAX:03-3294-5595

林材業の業況動向調査結果の概要（要点）
（平成 30 年度下期）

平成 30 年 11 月
独立行政法人農林漁業信用基金

（調査概要）

- 独立行政法人農林漁業信用基金が、業務参考資料として、年 2 回実施。
 - 今回は平成 30 年 11 月時点での下期（30 年 10 月～31 年 3 月）の現況・見通し、30 年度上期（30 年 4 月～30 年 9 月）の実績を調査したもの。
有効回答回収率は 37.3%（有効回答企業 180 社）
 - 詳細情報は当基金の HP（<http://www.jaffic.go.jp/>）に掲載予定。
- （凡例）
- ・ D I：動向指数（Diffusion Index）。プラス要因指数からマイナス要因指数を控除し算出
 - ・ Δ○P：マイナス○ポイント
 - ・ 前回（調査）：平成 30 年 7 月に実施した本調査（平成 30 年度上期調査）

1 売上げの見通し

売上げの見通し DI（増加－減少）は△15P となった（前回比＋8P）。

2 資金繰り等の見通し

- (1) 資金繰りの見通し DI（好転－悪化）は△10P となった（前回比△2P）。
- (2) 借入金調達難易度の見通し DI（容易－困難）は 7P となった（前回比△1P）。
- (3) 借入金残高の見通し DI（減少－増加）は△18P となった（前回比△2P）。
- (4) 短期借入金の金利の見通し DI（低下－上昇）は 0P となった（前回比＋4）。平均金利の実績は 1.84% となった（前回比△0.1%）。
- (5) 売上代金の回収状況及び仕入代金の決済状況については、
 - ① 売上代金の回収状況は「手形 51%～79%」・「手形 80%以上」が増加し、それ以外は減少した。
 - ② 受取手形のサイトの状況は、「3 ヶ月未満」・「4 ヶ月以上 5 ヶ月未満」・「5 ヶ月以上 6 ヶ月未満」・「6 ヶ月以上」の割合が増加し、それ以外は減少した。
 - ③ 仕入代金の決済状況は「手形 50%以下」・「手形 51%～79%」・「手形 80%以上」が増加し、それ以外は減少した。
 - ④ 支払手形のサイトの状況は、「4 ヶ月以上 5 ヶ月未満」・「5 ヶ月以上 6 ヶ月未満」・「6 ヶ月以上」が増加し、それ以外は減少した。

3 設備投資の意向

- (1) 設備投資の見通し DI（実施－不実施）は△24P となった（前回比＋3P）。30 年度上期に設備投資を実施した企業の割合は 31% であり、DI は見通しより 10P 少ない。
- (2) 設備投資の目的（上位 3 項目）は、「老朽化に伴う設備の更新」（57%）、「規模拡大のための増設」（15%）、「コスト低減等の合理化」（14%）であった。

4 在庫量の見通し

- (1) 原木在庫量の見通し DI（過小－過大）は△33P となった（前回比△17P）。
- (2) 製品在庫量の見通し DI（過小－過大）は△3P となった（前回比△5P）。

5 純利益の見通し

純利益の見通し DI（増加－減少）は△21P となった（前回比＋1P）。
地域別見通し DI は、「北陸」・「東海」・「中国」・「九州」が前回調査に比べ増加、その他の地域は減少した。

6 木材価格の見通し

- (1) 原木価格の見通し DI（下落－上昇）は 49P となった（前回比＋14）。
- (2) 製品価格の見通し DI（上昇－下落）は 12P となった（前回比△1P）。

7 当面する経営上の問題点

- (1) 経営上の問題点（上位 3 項目）は、「人手不足」（22%）、「原材料仕入れ原価上昇」（21%）、「売上不振」（17%）であった。

8 今後の経営の見通し及び事業方針

- (1) 今後の経営の見通し DI（楽になる－苦しい）は△25P となった（前回比△9）。
- (2) 今後の事業方針 DI（拡大－縮小・転廃業）は 3P となった（前回比△3P）。